

## 日立と NEC、.NET フレームワークに対応する COBOL 開発環境を共同開発

株式会社 日立製作所（本社：東京都千代田区、執行役社長：庄山 悦彦、以下 日立）および日本電気株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：金杉 明信、以下 NEC）はこのたび、.NET（ドットネット）フレームワーク\*<sup>1</sup>に対応する COBOL2002 規格\*<sup>2</sup>準拠の COBOL 開発環境を共同で開発することで合意しました。

注\*<sup>1</sup>：Microsoft 社の .NET フレームワークは、インターネットの高度な分散環境においてアプリケーション開発を容易に行うことができる新しいコンピューティングプラットフォームです。

注\*<sup>2</sup>：COBOL2002 規格は、2002年11月20日に新しく制定されたアプリケーション開発言語 COBOL の第4次国際規格 (ISO/IEC 1989:2002) です。1985年に制定された第3次国際規格の仕様を包含し、互換性を維持しながら、オブジェクト指向をはじめとする近年のプログラム言語の進歩を積極的に取り入れています。

企業のアプリケーション環境は、Web サービスなど新しい技術が普及する一方で、これまでに蓄積されたプログラム資産も多く、それらを融合させていくことが求められています。このような中、特に基幹系システムの業務アプリケーション開発の主力言語として幅広く採用されている COBOL には、XML や Web サービスへの対応や、PC サーバ環境でアプリケーションの連携を容易に実現できる .NET フレームワークへの対応が求められています。

日立は、1994年に COBOL でオブジェクト指向機能を実現する「OOCOBOL」、本年5月には世界で初めて COBOL2002 規格に対応した「COBOL2002」を製品化し、XML や SOAP などの新しい技術にも対応するなど、ユーザーの業務アプリケーション開発環境の充実に注力してきました。

NEC は、1998年に Windows®プラットフォーム向けの COBOL 統合開発環境「Open COBOL Factory21」を製品化し、オブジェクト指向機能をはじめとして、分散システム、Web システム向けの機能を COBOL アプリケーション開発ユーザーに提供してきました。

今回両社は、ミドルウェア領域における提携の一環として、業務アプリケーション開発言語である COBOL について両社の技術を有効に活用し、.NET フレームワークに対応する COBOL 開発環境を共同開発することで合意しました。共同開発にあたっては、日立が「COBOL2002」開発で培った新規格対応のノウハウを採り入れながら、.NET フレームワーク対応機能を両社で分担開発することで、開発効率の向上を図ります。

今後、両社は、共同開発の成果を取り込んだ .NET フレームワークに対応する COBOL2002 規格準拠の COBOL 開発環境を 2004年第2四半期に製品化する予定です。

### **他社商品名称に関する表示**

- ・ Microsoft、Windows は、米国及びその他の国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- ・ Windows®の正式名称は、Microsoft® Windows® Operating System です。
- ・ その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

### **取扱事業部・照会先**

株式会社 日立製作所 情報・通信グループ ソフトウェア事業部 企画本部 計画部 [担当：塚越]

電話： 045 - 862 - 8728 (ダイヤルイン)

日本電気株式会社 インターネットソフトウェア事業部

電話： 03 - 3456 - 6978 (ダイヤルイン)

E-Mail : [info@cced.jp.nec.com](mailto:info@cced.jp.nec.com)

以上

---

このニュースリリースに掲載されている情報は、発表日現在の情報です。  
発表日以降に変更される場合もありますので、あらかじめご了承ください。

---